

以下の問題A～Fは、解答を記述用の解答用紙に記入せよ。(各4点×5問)

A. 「宝永噴火」について、その発生した年代や規模、地形の変化などを含めて200字以内で記述しなさい。

西暦1707年に発生した大噴火で、現時点で歴史上最後の富士山の噴火である。南海トラフの大地震であったと推測される「宝永地震」がおきた49日後に発生した。溶岩流出は無かったが、大量の軽石や火山灰を噴出した。噴煙は偏西風にのり、江戸においても降灰したことが記録に残っている。噴火により南東斜面に即火山である標高2693メートルの宝永山が形成された。

B. 「富士山保全協力金」について、徴収の方法や場所、金額、使い道など200字以内で記述しなさい。

富士山保全協力金は、富士山の環境保全や登山者の安全対策等を目的として、2014年から本格導入された制度で、五合目から山頂を目指す登山者から1000円を徴収している。各登山口だけでなく、インターネットやコンビニエンスストアでも納付することができる。集まった協力金は、山中のトイレの新設・改修、救護所の拡充などに使われる。

C. 富士山を描いた代表的絵画である北斎の「富嶽三十六景」について、具体的な絵画名をあげるなどし、200字以内で記述しなさい。

富嶽三十六景は、北斎が富士山を描いた代表的な絵画である。発表されたときに北斎は72歳であった。36枚の時点で人気を集めたので、追加で10枚が発表され全部で46枚で構成される。特に有名な絵画は、巨大な波とともに富士を描いた傑作「神奈川沖浪裏」、赤富士を描いた「凱風快晴」、稲妻とともに夕立の富士を描いた「山下白雨」などがある。

D. 「富士山の火山防災対策」について、200字以内で記述しなさい。

富士山は1707年の宝永噴火を最後に、300年以上噴火していないが、今後はいつ噴火するかは予測できない。2001年に富士山火山防災協議会が発足し、火山としての研究と防災対策が行われている。予想される火口の位置や、溶岩流や火砕流が及ぶ範囲が示されたハザードマップを作製され、周辺の住民に配布されたほか、周辺自治体では噴火を意識した避難訓練も行われ始めている。

E. 遠方からはじめて富士山周辺を訪れる人に対し、麓からは、どのくらいの確率でどのような富士山をみることができるか（雪が積もっているかなど）の説明を、2月、5月、8月、11月、それぞれを示しながら、200字以内で記述しなさい。

富士山は概して、冬は見えやすく、夏は見えにくい。2月は7割以上の確率で雪が積もった富士山をみることができる。5月になると積雪も溶けてくるが約半数の日で見ることができない。8月になると麓から見えることはまれで、月に数日しかない。11月を過ぎれば雪が積もりはじめる富士山を半数以上の確率でみることができる。